

[江別市] 施策達成度報告書

政策 01 環境と調和する都市の構築

施策 03 水とみどりの保全と創出活用

主管課 環境室環境課

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (24年度)	施策の課題 (24年度)
<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化防止の観点から、みどり(樹木)は二酸化炭素を吸収する役割を担っており、保全・創出の重要度は増している。 市民の自然環境、緑化への関心の高まりの中、「豊かな心の醸成」と「自然希求」のライフスタイルが浸透し、草花や樹木を生活空間に取り入れ、自然とふれあいながら生活を楽しむ市民が増えている。 自治会等で取り組む「花のある街並みづくり運動」や農村地域での花で彩る取り組みなど、快適な環境づくりが地域の取組みとして実践されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大都市近郊の平地原生林としては、たいへん貴重な野幌原始林(森林公園)など、貴重な自然の恵みを活かしたまちづくりが求められている。 水と緑豊かな街づくりのためには、地域にある森林や河川・湖沼などの身近な自然環境の保全活動が、市民的運動として発展・定着することが不可欠である。

施策の目的

市民・事業者・行政の協働により水と緑が豊かで、快適なまちを目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

自然環境(緑資源・水資源)、市民、事業者、行政

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

水とみどり豊かなまちになっている。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
緑に親しめる空間があると思う市民割合	%	82.7	-	85.4	84.5	↗
水に親しめる空間があると思う市民割合	%	62.8	-	65.9	66.2	↗

施策の達成状況 (24年度)

「緑に親しめる空間があると思う市民割合」「水に親しめる空間があると思う市民割合」とも増加傾向にあるものの、横ばいな状況にある。緑に関する設問では、江別地区・野幌地区とも80%代前半の割合にあるが、野幌原始林に近接する大麻地区では91%と割合が高く、水に関する設問では、江別地区・野幌地区・大麻地区とも同程度の割合(65%~71%)にある。
市民の憩いの場である野幌原始林や雄大な流れの石狩川など、自然を身近に感じることができる環境であることから、今後とも身近な水とみどりの保全に取り組んでいく。

施策事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	33,524	38,000	40,926
事業費(千円)	18,274	21,165	24,007
人件費(千円)	15,250	16,835	16,919

基本事業の目的

市民と事業者、行政が協働して地域の水と緑を守り、身近な自然環境や水辺環境を守ります。

対象 (誰を対象とした指標か)

自然環境、市民、事業者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

水と緑を守る。
身近な自然環境や水辺環境を守る。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
地域制緑地(緑地保全地区等)面積	ha	5,240	5,240	5,240	5,406	5,240

基本事業の達成状況 (24年度)

法や条例に基づいて指定されている「地域制緑地(緑地保全地区等)」面積は、江別太遊水地が事業化となり河川区域に指定されたことから増加している。緑化推進条例で指定している保存樹木等は、市の定期的な巡回観察や所有者の適切な管理によって保存がなされており、今後も減少しないよう、市民植樹など啓発活動を通して、緑地の保全意識の醸成に努める。
また、水辺環境については、市民アンケートの「水に親しめる空間があると思う市民割合」の設定で、江別地区・野幌地区・大麻地区とも同程度の比較的高い割合(65%~71%)にあり、今後も身近な水とみどりの保全に取り組んでいく。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	4,950	11,821	13,178
事業費(千円)	937	3,805	5,122
人件費(千円)	4,013	8,016	8,056

基本事業の目的

市民・事業者が、木や花を植えるなど緑を育てるとともに、水辺を活用し水と緑を感じ、ふれあうことにより、潤いのある緑豊かなまちづくりを目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

自然環境、市民、事業者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

緑を育てる。
緑を育み、緑豊かなまちづくり。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
花のある街並みづくり事業の参加団体数	件	106	109	107	103	120
自宅で緑を育てている市民割合	%	59.4	-	56.3	54.0	↗

基本事業の達成状況 (24年度)

「花のある街並みづくり事業の参加団体数」は減少している。この事業は、快適で美しい街並みづくりのため、花やみどりがある環境を市民協働により創出しようとする取組であるが、自治会の担い手の高齢化や花壇がないなどの要因から参加できない団体も生じており、参加団体数は伸び悩みをみせている。今後は花壇の維持管理手法の負担軽減化などの取組を検討していく。
「自宅で緑を育てている市民割合」は年齢が高くなるほど割合が高くなっている。若年層ではアパートなどで緑を育てることが現実的に難しいことが要因と考えられるため、今後は自宅で緑にふれるなど、空間に応じた緑のはたらきの視点を取入れ周知啓発を進める。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	21,624	18,848	20,230
事業費(千円)	12,795	12,434	13,784
人件費(千円)	8,829	6,414	6,446